

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見北高等学校

学校番号

44

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の修得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を育てる。 (2) 豊かな人間性と情操を養うとともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を育てる。 (3) 自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を育てる。 (4) 地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を育てる。 (5) 教職員が業務内容を不断に見直し、働き方改革を進める。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を身につけた生徒 ・豊かな人間性や情操とともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を身につけた生徒 ・自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を身につけた生徒 ・地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を身につけた生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を喚起し、思考力を高める授業の推進 ・信頼と愛情を基盤とし生徒理解に徹する指導の推進 ・将来を見据えた体系的なキャリア教育の推進 ・自主的、実践的な態度とともに、豊かな人間関係の育成 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育目標及びグラデュエーション・ポリシーを理解し納得するとともに、カリキュラム・ポリシーに沿った教育に進んで取り組む意欲のある生徒 ・「自主、自律、自学」を身につけ、「自分らしい生き方」へ向かって進む意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程及び学習指導）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用に関しては、教員間で誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。また、教科内外での情報交換が増え、教材の開発と蓄積も進んだ。 ・ほぼすべての教員が毎時間タブレットを使用して授業を行うようになり、生徒が能動的に活動する場面を確保できた。 ・教員のICT機器の使用に関するトラブルは減ったが、生徒のタブレット破損等が増えた。 ・生徒の学習に対する評価方法に関して、課題が残った。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ICT活用と授業改善を両輪とした確かな学力の定着と観点別学習状況評価方法の確立。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、学年、分掌の枠を越えて、授業参観や情報交換を行う。 ・学校全体でデジタル化を進める。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 校外の研修への積極的な参加と、そこで得た成果の共有化 (2) 授業公開を通して、主体的な学びの促進を図るためのICT活用スキルの共有化 (3) タブレットの使用方法について、各学年教科等で機会を捉えて指導 (4) 教科内外で観点別学習状況評価に関する研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 研修参加者数 (2) 公開授業の参加状況と生徒の授業評価 (3) タブレット破損数 (4) 観点別学習状況評価の実施状況 	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 校外で実施された研修に延べ27名（54講座）の教員が参加し、そのスキルを各分掌、教科等で共有した。 6月にすべての教員が同一教科内だけでなく教科の垣根を越えて公開授業、授業参観を行い、個々の教員の授業改善、自己の教科へ導入できる手法等の模索など、生徒が能動的に学ぶ授業についての研究を学校全体で推進した。また、11月にはすべての教員が生徒対象の授業評価を行った。「授業内容の理解を深めるために、情報機器が活用されている」という項目は、80%以上が肯定的な評価であり、新型コロナウイルス感染拡大以降、高い水準を維持している。 タブレットの使用方法について、機会を捉えて注意喚起を行った。今年度のタブレットに関するトラブルは1月末で「故障・不調13件、破損31件」であり、昨年度よりも若干増えているが、これは昨年度10月からタブレットを毎日持ち帰るように規定を変更したことによるものである。破損のうち約3分の2は通学途中にカバンの中で知らない間に破損していたというものであり、注意喚起により使用中の落下による破損は減っている。 観点別学習状況評価を1年生において実施した。各教科で研究を重ね、概ね問題なく実施できているが、従来の評価方法からの脱却がなかなか難しいようである。 	<p>①研修参加者数の維持。 ※昨年度の研修参加者数は延べ33名、53講座。</p> <p>②公開授業への積極的な参加と生徒の授業評価における高評価の維持。</p> <p>③使用中のタブレット破損数の減少。 ※昨年度は故障・不調11件破損26件。破損のほとんどが使用中の落下によるもの。</p> <p>④観点別学習状況評価の研究。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
12 成果 ・課題	<p>○ICT活用に関しては、教員間で誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。また、教科内外での情報交換により、教材の開発と蓄積も進んだ。</p> <p>○教員が毎時間タブレットを使用して授業を行い、生徒が能動的に活動する場面が増えた。また、タブレットを使用した小テストや添削を導入した教科もあり生徒の主体性の向上だけでなく、教員の働き方改革にもつながった。</p> <p>▲タブレットの落下による破損は減ったが、登下校の際の破損が増えた。</p> <p>▲観点別学習状況評価に関しては、各教科で研究を進め、何とか評価することができたが、評価と指導の一体化というところまでは進んでいない。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) タブレットの活用機会が増えれば、故障や破損も増えることは間違いないが、少しでも破損が減るように注意喚起を続けながら、タブレットの活用機会は増やしていきたい。学校内の破損は減ったので、登下校時等の学校外でのタブレット管理について特に注意喚起をし、場合によってはタブレットカバーの購入を勧めたい。</p> <p>(2) 観点別学習状況評価については、実際に評価してみても各教科で様々な課題が見つかったため、教務部を中心に評価方法の研究を進めたい。また、ICT活用と絡めながら、指導と評価の一体化を図りたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業以外でタブレットを使う機会にはどんなものがあるのかという質問をいただいた。 → 家庭学習記録をデジタル化し、毎日タブレットで入力している例などを紹介した。 生徒が安心してタブレットを使用できるように、破損や故障の修理費が生徒の負担にならないようにできないかという要望をいただいた。 → 来年度はPTA会計で対応する予定であると伝えた。それを聞いて委員全員が安心されていた。 観点別学習状況評価について、どのようなものか具体的に知りたいという質問をいただいた。 → 従来の評価方法と観点別学習状況評価の違いを説明し、理解していただいた。 新型コロナウイルス感染拡大によりオンライン授業等が導入されて3年となるが、よく対応しているという評価をいただいた。

3	評価する領域・分野	◇生徒指導（生活・教育相談・特別活動）	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・月間生徒指導目標の掲示による、生徒の意識向上。 ・教育相談的配慮が必要な生徒についての全職員による共通理解の推進。 ・行事や生徒会活動等の充実と見直し。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の大切さを教えるとともに、生徒が自ら進んで挨拶できるよう指導する。 ・不登校傾向の強い生徒に対する教育相談体制を強化する。 ・コロナ禍における学校行事の在り方を検討し、対策を行いながら実施する。 	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・身だしなみ・教育相談といった指導を、全職員で行う。 ・生徒指導部を中心に、他の分掌と連携しながら全職員で学校行事の実施にあたる。 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) ・挨拶や身だしなみをはじめとする生徒指導を全職員で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全協会と連携して、MSリーダーズによる交通安全運動を実施する。 <p>(2) ・教育相談係、担任や学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講話等の実施。 <p>(3) ・行事や活動後に職員アンケートを実施して、内容の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や委員会活動の充実を図るため、教員と生徒との協力体制。 		<p>(1) 講話の感想、アンケート結果</p> <p>(2) 迷惑調査結果・遅刻統計結果</p> <p>(3) ボランティア活動記録、アンケート結果</p>	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・月間テーマでの挨拶呼びかけ ・悩みを持った生徒に対する早期対応 ・学校行事における十分なコロナ対策 		<p>① ほぼ毎月行うことができた</p> <p>② 十分に対応できている。スクールカウンセラーの回数に限りがあるのが課題</p> <p>③ 各委員会の協力を得て対策を行うことができた反面、コロナ対策意識の低い生徒が一定数いた。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12	成果 課題	総合評価	
<p>○月間テーマを活用して様々な生活面における挨拶の呼びかけを行うことができています。さらに教員や生徒が校内ですれ違うたびに挨拶をする様子をよく見るようになった。</p> <p>○心配な生徒がいた場合は、教育相談係が中心となって学年と連携し、声かけや面談等を行い、速やかに相談係やスクールカウンセラーとの面談に繋げることができている。</p> <p>○いくつかの学校行事をコロナ前の形式で行うことができた。</p> <p>▲すべての教員が生徒指導に対する意識をもち、足並みをそろえて指導を行うことが、十分にできているとは言えない。</p> <p>▲アンケートの結果から、いじめや差別を許さないという100%の評価は得られていない。</p> <p>▲コロナ前の行事を知っている教員が随分と減ってしまい、見通しが甘く、決まりやトラブルへの対応が十分にできたとは言えなかった。</p>		<p>A B C D</p>	
13	来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修会等を活用して、全職員の生徒指導意識の向上をはかる。 ・教育相談部会や学年会等による、生徒の情報共有の強化をはかる。 ・学校行事については今年度の振り返りを十分にを行い、来年度に向けて改善点を洗い出しておく。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】
・挨拶について、小中学校では登下校中に見知らぬ人から挨拶をされても相手にしないように指導されている。そんな中、高校から挨拶の指導を基本からきちんと行うことはとても大切であると感じる。

・3年生はコロナのスタート学年。多くの行事ができなくなり、我慢を強いられてきたが、その分、実施できた今年の北辰祭では大きな達成感を味わうことができた。学校に感謝したい。

・今の若い人たちを見ていて思うのは、（マニュアル通りに動くのではなく）自ら状況を見て、判断して考えて行動する力がない。そんな中、多治見北高校の生徒達の主体的な取組がそういった力を磨く。これからも将来の若者のためにこのような活動を継続して行ってほしい。

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下でも、学力とキャリア形成について3年間を見通した流れを生徒・保護者・職員に提示、進路指導の内実を満たせた。 ・進学指導重点校事業、ICTなどを有効活用できた。 ・推薦入試の実態の変化に合わせた規定の改善ができた。 ・外部に出かけてのキャリア意識醸成の機会が不十分だった。 ・受験期の学習支援が、コロナ禍や高校入試の制度変更によって、従来のようにはできなかった。 ・新課程についての情報収集と対応を進める必要が高まった。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) キャリア教育を軸に、教育活動の体系化を進め、本校進路指導の強化を図る。 (2) FRH 指定を活用したTKt, TSP, TGP 実施を通して、生徒の知的興味関心の幅を広げ、多様な進路の可能性を実感させる。 (3) 新入試、新教育課程に対応する学力醸成に向け、ICTや外部活力の活用を励行する。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ol style="list-style-type: none"> (1) 進路指導部のメンバーが大きく入れ替わったことに配慮して、部会において各学年の動きを常に共有する。 (2) 探究推進部との連携を密にし、多様な進路選択についての情報提供や探究活動を連行する。 (3) 八校会の進路指導部、受験産業と情報を共有し、得た情報を学校運営に迅速に反映させる。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 3年間の進路行事の流れと、キャリア教育の体系を図示し共有する。 (2) 卒業生をはじめ、多様な外部人材を活用しながら各種講座の充実を図ることで生徒の主体的な学びを促し学習意欲を喚起する。 (3) 高大接続の動向について校外の研究会を活用して情報収集し、生徒の実態とのすりあわせを進めながら、進路実現に向けた最適な道を探り出す。 (4) 学年や教科との連携によって生徒の学習課題を洗い出し、受験産業の講師を招聘した講座などを効果的に実施して意欲の喚起に繋げる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 進学指導重点校事業をはじめ、各事業実施の充実とその効果の検証。 (2) TKt, TSP, TGP等の実施状況と生徒の事後アンケート、感想の参照。 (3) 学びの基礎診断。土曜開校等の参加状況。講座における生徒アンケート。 (4) キャリアパスポート。生徒保護者に対する学校評価アンケート。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・部内外における情報共有の励行と、若手への仕事内容の継承。 ・校内外の活力や進学指導重点校事業の有効活用 ・オンライン配信をはじめとするICTの活用と新課程入試に関する情報収集と周知。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 仕事内容の見える化と各担当の仕事の進捗 ② 各種事業の有効性 ③ 情報周知の度合い 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果・課題	<p>○アンケート結果で、進路情報提供や具体的な進路指導に関しての評価が、親子とも昨年度より上がった。コロナの混乱で下がった評価が取り戻せた。</p> <p>○学力向上のための支援、補習や土曜講座などに対する評価が、親子とも昨年度より上がった。休校などがなく、従来の指導が展開できた。</p> <p>○コロナ等でイレギュラーな状況が多々あった中で、新しく分掌に加わった若手を含め、各種の業務内容を大過なく進めることができ情報共有も励行できた。</p> <p>○進学指導重点校事業では小論文と数学についての講座を実施し、従来からの講座も効果的に実施できた。</p>	
		総合評価
		(A) B C D

	▲仕事の効率化が十分進んでおらず、次世代に安心して渡せるだけの図式化、マニュアル化が完了していない。	
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況を見ながら、校外での活動や、校外の人的資源の活用など、キャリア教育に資する諸活動を復活させ、現状に適合した形に改める。進学指導重点校事業も有効活用する。 ・進路指導部の業務の組織化を進め、誰が担当しても支障なく指導が展開される体制を整える。その組織について、部外校外にも分かりやすく示せるような工夫をする。 ・コロナの副産物であるICT活用を継続すると共に、対面で復活すべきこととのバランスを考え、効果のある進路指導を展開する。 ・仕事の効率化を図り、負担の少ない形で効果のある諸活動のあり方を模索する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下で普及したオンラインシステムでの進路行事開催を、保護者の都合に合わせてながら、対面とうまく組み合わせて活用することが望ましい。 ・きめ細かい進路指導が継続されていることは高く評価できる。 ・変化の激しい入試制度などについて適切に情報提供がないと、今後、保護者の不安が大きくなると思われる。そうした気持ちに寄り添った配慮を継続してほしい。
